

長者町アートアニュアル実行委員会（真夏の長者町大縁会 2013）会場
活動視察（インターンシップよっしーの日記）

日時：2013年8月24日（土）

見学時間：11：00～13：30

場所：名古屋市中区錦2-11-16

交通：地下鉄東山線 伏見駅下車

（長者町アートアニュアル実行委員会について）

あいちトリエンナーレ2010終了直後、継続的なアートまちづくりを推進するためにまちの有志で結成された任意団体です。

昨年度は、まちとアートの「出会い」による長者町の魅力発信として、季節ごとに実施するイベントを通じて多様な担い手の参加へとつなげました。今年度は、「おもてなし」の要素を加え、新たに増える制作スタジオ拠点をベースにまちかどアートを設置し、日常的な情報発信スポットとしても機能するように仕掛けます。イベント時にも来街者を巻き込みプロセス型の作品を新たに展開していくことで、参加者層を広げ、長者町界隈の魅力発信につなげる取り組みを行います。

【活動の様子】

今回、長者町アートアニュアル実行委員会さんが提案するアートとまちのイベント「真夏の長者町大縁会」を見学しました。

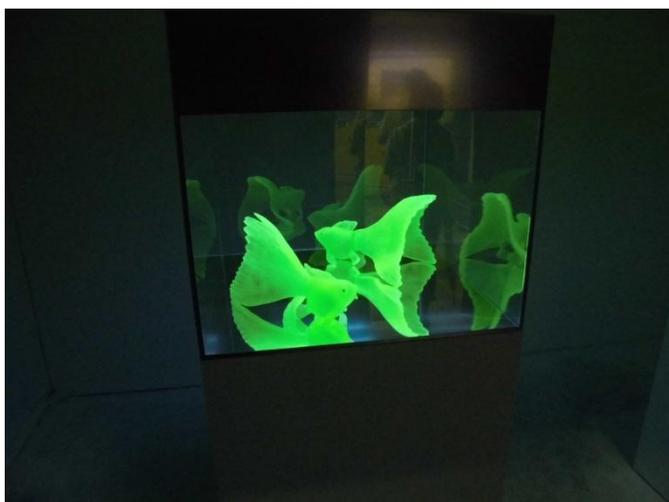
会場に行く道のりの伏見地下街にて「あいちトリエンナーレ2013」の作品がいくつかありました。



伏見地下街にあるトリックアート



伏見駅入り口全体がブループリントに



特殊な加工が施された金魚の置き物

他にも、ブラックライトに照らされた階段などあり、多くの観光客や地元の方など現代美術に触れ、写真を撮っていました。

真夏の長者町大縁会は、あいちトリエンナーレ 2010 をきっかけに生まれた、長者町の夏のお祭りで、長者町界隈で活動する多様な団体が、共同で開催し、3年目を迎えるそうです。今年のテーマは「いらっしゃい、長者町」。昭和を意識されたそうで、ステージ始め会場全体が昭和の雰囲気漂う空間となっていました。

飲食屋台は、長者町で営んでいる飲食店が出店し、自慢の料理やドリンクなど販売されていました。また、「ココナッツアイランドステージ」と名付けられた特設ステージでは、懐かしみのある曲を演奏するというので、生バンド演奏によるのど自慢大会の開催がされるそうです。会場の中心にはやぐらが設置されており、そのやぐらの上にあいちトリエンナーレのアーティストが立ち、生歌でオリジナル曲を歌い、その周りで盆踊りを踊るなど、様々な催し物が予定されていました。



長者町大縁会の会場



また、その会場にも、「あいちトリエンナーレ」の作品がありました。



← 大縁会会場に飾られていた作品。
ASIT「寄木」

これ以外にも、2010年度に行われた際に描かれた壁画がそのまま残っており、「真夏の長者町大縁会 2013」をより一層盛り上げる作品になっていました。



会場を後にし、「長者町アートアニュアル実行委員会」がおもてなしスペースにしている拠点へ向かう途中、あるものを見つけました。



長者町各所に設けられているベンチ



タオルなど冷やすための「ひやし水」

これらは、まちづくり活動助成「まち“夢”工事部門」の助成を受けて造られたベンチで、長者町を歩く方が休憩し、いろんな方とコミュニケーションを取ることのできる場として設けられました。また、暑い中來られた方に「ひやし水」を提供し、少しでも暑さを和らげてほしいという実行委員会のおもてなしの心が目に映りました。

そこから、少し歩いたところに実行委員会おもてなし拠点「ビジターセンターアンドスタンドカフェ」がありました。



← 中央の3階建てのビルが「ビジターセンターアンドスタンドカフェ」



← 中は、とても綺麗な café でした。

1階が café となっており、そのスペースの壁には café を訪れたアーティストによるペイントが施されていました。

また、そこは café 以外にも長者町の案内所（インフォメーション）としても開かれており、長者町周辺が 500 分の 1 の模型が飾られていました。

そして、一角には有機栽培された野菜が多く販売しておりました。



よっしーの感想

今回、長者町を歩き、比較的住んでみえる方が少ないと感じました。以前、繊維街で活気にあふれていた「長者町」をこの企画を通して多くの方が訪れ、よく知り、結果的に住んでもらえたら良いなと思いました。

また、長者町には今後このような企画があった際、続けて参加してもらい、更なる発展に繋げてもらえることを期待しています。



おむすびの感想

天候が危ぶまれていましたが、猛暑でもなく、曇り空のいい天気にも恵まれた日でした。場所は、通常コインパーキングとなっている駐車場を利用した手作り感あふれる特設会場となっていました。開場時間すぐだったこともあり、訪れている人は数人のようでしたが、おもてなしの志を感じるベンチが会場に多く設置されていました。

ビジターセンターは、常時人を配置し、アーティストや観光者と居住者のどちらにも対応できるように、試行錯誤しながら運営されているようでした。様々な人々をつなぐ拠点として、また、情報発信スポットとして今後も継続していただきたいと思いました。